

# 釧路湿原川レンジャー News

2016 Vol.2

## 第1回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました

平成28年6月15日(水)に17名が参加して、平成28年度の「第1回釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました。

今回は、釧路町岩保木水門付近での「花咲かじいさんプロジェクト」と標茶町塘路での「オオハンゴンソウ防除活動」に参加しました。また、北海道新聞の太田記者が同行取材を行い、川レンジャーへインタビューや撮影を行いました。

### 「花咲かじいさんプロジェクト」について

平成8年から岩保木水門周辺で、釧路開発建設部が釧路町立遠矢小学校と協働で実施している植樹活動です。児童が釧路川流域に生育しているハルニレなどの自然木からタネをとり、育てた苗木を、釧路湿原周辺で植樹を行います。

#### ●樹木の生育観察

24年前(平成5年)の植樹活動により植樹したケヤマハンノキの苗木は、10cm程度から8m10cmに生育していました。

#### ●湿原観察

現地に生息している「ヤチボウズ」の説明を聞いた後、湿原(国立公園外の河川区域)で採取したヤチボウズを切断すると、内部には泥炭が詰まっていて、触るとフワフワした感覚に驚いてました。

#### ●植樹作業

植樹ポット苗は、アオダモ・ハルニレ・エゾヤマザクラなど29種類で、釧路川流域や釧路湿原の自然林で採取した種子を育て使用しました。植樹は1サークルにポット苗を10ポット植えました。川レンジャーは、19サークルに190ポット、児童は10サークルに100ポット植樹しました。なお、植樹後に行った樹木記録(植えた位置と樹高)調査は、今後の生育調査の基礎資料になります。

#### ●ポット苗づくり

ポット苗は、カラコギカエデ、ヤチダモ、ハンノキの3種類221個を制作しました。この苗は順調に生育すると来年度以降の植樹活動に使用されます。



位置図



樹木の生育状況を確認



ヤチボウズの断面を観察



植樹の様子



ポットに移植



植樹記念撮影

「オオハンゴンソウ防除セミナー」

サルボ展望台付近に生育するオオハンゴンソウの防除作業が、環境省 釧路湿原自然保護官事務所 寺内自然保護官の指導のもと、川レンジャーにより行われました。寺内自然保護官から「オオハンゴンソウは特定外来種に指定されており、釧路湿原内の広範囲に分布しています。この種は広大な面積に黄色い花を咲かせ、釧路湿原になかった景観を生んでしまうこと、また、オオハンゴンソウが繁茂すると日陰となって在来植物が生育できなくなる（草丈が高い）ため、早急な対策が必要。」との説明がありました。

特定外来生物オオハンゴンソウの防除について

●オオハンゴンソウとは？

- ・ 特定外来生物で、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）』により指定されている。
- ・ ヨモギと良く似ているが、葉っぱの切れ込みがヨモギの方が整った形をしていて葉っぱの裏側に毛がはえて白いのがヨモギの特徴です。また、ヨモギの葉に似ている植物にはトリカブトがある。



●なぜ防除しなければならないのか？

- ・ 1990年代に釧路湿原周辺域への侵入・定着が確認され、2010年、2011年に実施された分布調査の結果、釧路湿原国立公園内の広範囲（主に釧路川沿い）に生育していることが明らかになった。
- ・ 釧路湿原国立公園内における分布拡大に伴い、釧路湿原本来の景観の損失が深刻化している。また希少な在来生態系への影響も懸念されており、その対策が急務となっている。
- ・ サルボ展望台付近では、同種のヤエザキオオハンゴンソウ（特定外来生物）を防除する。



駆除前の様子



駆除の様子



駆除後の記念撮影



同行取材された太田記者

蒸し暑い中、大変な作業に参加された皆様、お疲れ様でした。

観察活動の報告

新年度に入り、観察活動の報告がありましたので紹介します。6月はゴミの不法投棄と貴重な動物の報告がありました。

今後も釧路湿原川レンジャーNewsで紹介していきますので、皆さんからの報告をお待ちしています。

観察活動で報告された内容



報告日	報告内容
H28.6.14	ゴミの不法投棄
H28.6.23	野鳥とミンク



紀国民提供 (新釧路川)

(新釧路川)

アビ



紀国民提供 (新釧路川)

(新釧路川)

アマサギ



紀国民提供 (釧路川)

(釧路川)

ミンク



紀国民提供 (釧路川)

(釧路川)

マガモのヒナ